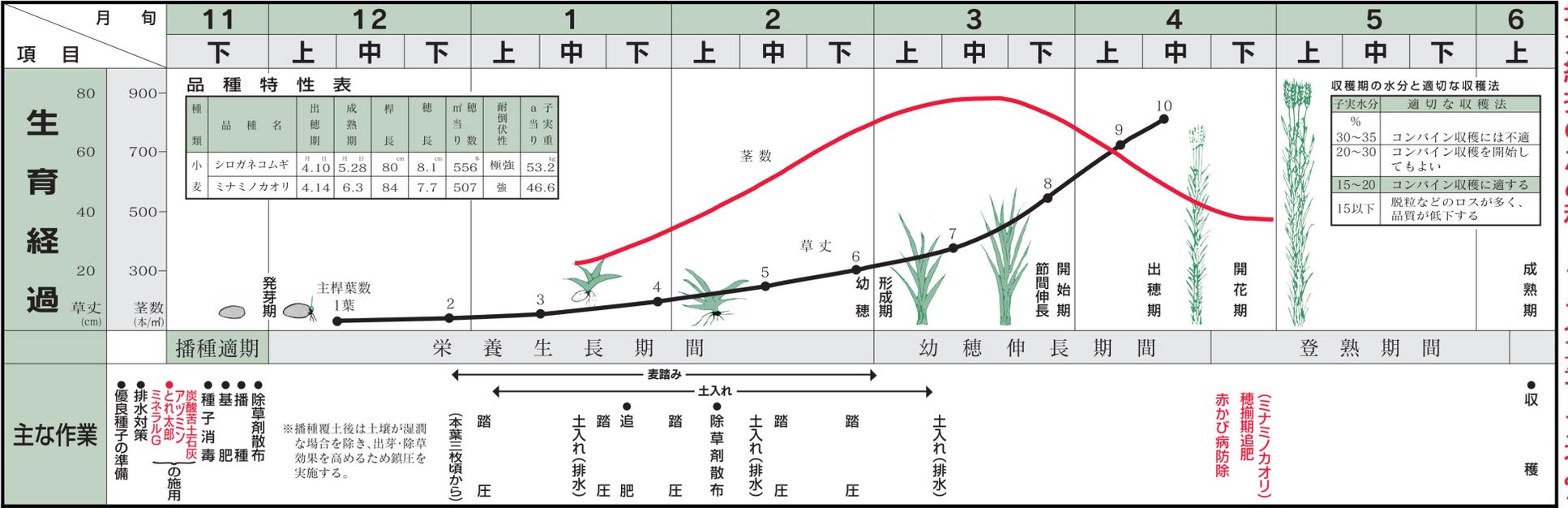


全量種子更新で高品質な売れる麦生産に努めましょう!!

地力維持のため稲ワラを全量すき込みましょう。



柳川の選ばれる麦づくり運動

※実需者が求める品質の高い麦づくりに努めよう!!

シロガネコムギ(日本種用)

- タンパク9.7%以上~11.3%以下
- 灰分1.6%以下
- 容積重840g/l以上
- フォーリングナンバー300以上

ミナミノカオリ(パン・中華種用)

- タンパク11.5%以上~14.0%以下
- 灰分1.75%以下
- 容積重833g/l以上
- フォーリングナンバー300以上

良質安定多収 8つの重点ポイント

1. 湿害(排水)対策 (弾丸暗渠の実施)
2. 地力増強 (とれ太郎・アヅミン・ミネラルG(炭酸苦土石灰)の散布)
3. 種子更新
4. 種子消毒の徹底
5. 適期播種
6. 雑草防除
7. 赤かび病防除
8. 異品種の混入防止

地力増強(土づくり)

1. 有機物の施用
稲わら: 全量12~15cmの深さですき込む。
堆肥: 牛糞1~2tまたは、アヅミン40kg/10a施用。
2. 土壌改良剤の施用
収量・品質の安定のために、ケイ酸質資材やアルカリ資材を施用する。
ケイ酸補給: とれ太郎 60kg/10a施用。
PHの矯正: 炭酸苦土石灰140~200kg/10a施用。
ミネラルG 140~200kg/10a施用。

赤かび病防除の徹底

「赤かび病」は麦の収量、品質に大きく影響します。特に、食品の安全性が問われる中で、かび毒であるデオキシニバレノール(DON)が取り沙汰され、農産物規格規程上、赤かび病被害粒混入限度0.0%と厳しい基準となっています。

赤かび病予防を行うことが売れる麦の最低条件となっています。

近年目立つ雑草

〈カラスノエンドウ〉 〈カズノコグサ〉

4月に赤紫の小さな花が咲き、麦の収穫時期に3cm程の黒い莢を着ける蔓性のマメ科植物。

湿田に多く、春早くから茎が直立し、茎先に穂を出す。穂は熟すると黄色になる。

排水対策

①地下排水: 有材暗渠+弾丸暗渠
②表面排水: ぼ場周囲+畦間(枕地に溝を切り排水口に通ず)

※麦は湿害に弱い。ぼ場の排水性が収量や品質に大きく影響を及ぼします。
降雨後の水がぼ場に停滞しないよう排水溝の整備を行いましょう。

播種時期及び播種量

☆品質向上と安定生産の為、毎年、全量種子更新を行い、充実のよい種子を用いる。(10a当り)

種類	播種適期	播種量
小麦	11月20日~11月30日	シロガネコムギ 6~7kg ミナミノカオリ

前年度ヤギシロトビシンの被害を受けた圃場では、播種適期の範囲内でなるべく早く播種する。
※晩播限界 12月15日
注意) 晩播対策: 播種量を20~40%増量する。
大豆 後: 播種量を20%減らす。

施肥基準

品種名	基肥	一発追肥(1月下旬)	穂摘期追肥(出穂10日後頃)
ちくごのめぐみ444	麦追肥一発1号	硬質小麦用追肥3004	硫安
成分(N-P-K)	14-14-14	24-0-5	30-0-4 21-0-0

※穂摘期追肥を尿素の葉面散布で行う場合は、開花期と開花期から7日後頃の2回に分けて実施します。(5kg/100l/10a×1回で硫安10kg/10aに相当)
高温時に尿素葉面散布を行うと、葉焼け程度が激しくなる場合がある。
尿素の濃度が高いと葉焼けの程度が激しくなる場合がある。

麦踏み

12月下旬~2月下旬(本葉3枚頃~節間伸長期間)にかけて分けつ促進と徒長防止のために3~5回を目途に行う。
土が乾燥し、茎葉に霜や露がない条件下で実施する。
茎立以降は麦踏みはしない。

土入れ

1月上旬~中旬、2月上旬~中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

種子消毒

薬剤名	対象病害虫	処理方法
ベンレートTコート	斑葉病 黒根病 なまぐさ黒根病	種子10kgに薬剤50gを粉衣する。
アドマイヤー水和剤	ヤギシロトビシン	種子10kgに薬剤15gを粉衣する。
キヒゲンR-2フロアブル	ヤギシロトビシン	種子10kgに薬剤200mlを塗布する。

※ベンレートTコートとアドマイヤー水和剤は混用できる。
※ヤギシロトビシン多発田では、アドマイヤー水和剤とキヒゲンR-2フロアブルを混用する。

病害虫防除

防除適期	対象病害虫	薬剤名	10a当り散布量
小麦: 開花期(出穂後7~10日)	赤かび病	トップジンM粉剤DL トップジンM水和剤	4kg 1000倍液 薬液100ℓ

※開花期に降雨が続くと赤かび病が多発するので、雨があつた後に2回目(5~7日程度の間隔)での防除を行う場合は、ワークアップ粉剤DL3kg/10a又はワークアップフロアブルの2,000倍液で薬液100ℓ/10aを散布する。

除草基準

薬剤名	適用雑草名	使用時期	10a当り使用量(希釈水量)	使用上の注意
リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後~麦3葉期(雑草発生前~イネ科1葉期)	60~80ml(水100L)	・幹土、整地は丁寧に1回深さ2~3cmになるように覆土する。 ・本剤がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることある。 ・まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
リベレーターG(粒剤)	一年生雑草	播種後~麦2葉期(雑草発生前~イネ科1葉期)	4~5kg	・幹土、整地は丁寧に1回深さ2~3cmになるように覆土する。 ・本剤がしめりすぎていると効果むらや葉害の原因となることある。 ・まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテトポウ	播種後~麦3葉期(雑草発生前~発生始期)	4~5kg	・土壌が乾燥している時は、効果が遅れる場合がある。 ・本剤を使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用できない。(どちらか1回のみ)
ハーモニー75DF水和剤	一年生広葉雑草 スズメノテトポウ	麦1葉期~節間伸長期(スズメノテトポウ5葉期まで)	5~10g(水100L)	・カズノコグサに重点を置いた防除を行う場合は10g使用する。
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草 ヤエムグラ	節間伸長期開始期まで(広葉雑草2~4葉期)	50~100ml(水100L)	・効果の発現が早く、低温条件下でも効果的である。 ・麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じることがある。一過性でその後の生育に影響しない。 ・茎立以降は、白斑、白点が悪化を生じることがあるので使用しない。
アクチノール乳剤	一年生広葉雑草 カラスノエンドウ	穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	100~200ml(水70~100L)	・高温時の散布は葉の黄化を生じるので注意する。
バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンボウケ類	小麦の生育期(雑草の3~6葉期) 収穫45日前まで	100~200ml(水70~100L)	・キンボウケ類に効果が高い。 ・低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注) ①ハーモニー75DF水和剤散布に当たって周辺作物に葉害を与えるため、散布時の飛散(専用ノズルの使用)や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニー75DF水和剤散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間置いた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤Fを使用した後に、ハーモニー75DF水和剤は使用出来ません。

平成31年産麦栽培管理記入欄

品種名 作付面積	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
シロガネコムギ	弾丸暗渠 / ~ 日	種子消毒 / ~ 日	播種・基肥 / ~ 日	麦ふみ / ~ 日	土入れ / ~ 日	赤かび防除(1回目) / ~ 日	赤かび防除(2回目) / ~ 日	收穫																
ミナミノカオリ	弾丸暗渠 / ~ 日	種子消毒 / ~ 日	播種・基肥 / ~ 日	麦ふみ / ~ 日	土入れ / ~ 日	赤かび防除(1回目) / ~ 日	赤かび防除(2回目) / ~ 日	收穫																

種子更新

実施項目	※資材・農薬名	○印	使用量
種子更新	品種名 シロガネコムギ		kg
	品種名 ミナミノカオリ		kg
土壌改良資材	アヅミン		kg
	とれ太郎		kg
	炭酸苦土石灰		kg
	ミネラルG		kg
種子消毒	ベンレートTコート		g
	アドマイヤー水和剤		g
	キヒゲンR-2フロアブル		g

基肥

実施項目	※資材・農薬名	○印	使用量
基肥	ちくごのめぐみ444		kg
	リベレーターフロアブル		ml
土壌処理剤	リベレーターG(粒剤)		kg
	ハーモニー細粒剤F		kg
茎葉処理剤	ハーモニー75DF水和剤		g
	エコパートフロアブル		ml
	アクチノール乳剤		ml
	バサグラン液剤		ml

追肥

実施項目	※資材・農薬名	○印	使用量
追肥	麦追肥一発1号		kg
	硬質小麦用追肥3004		kg
	硫安		kg
赤かび防除	トップジンM水和剤		g
	トップジンM粉剤DL		kg
	当農産物組合等委託		kg
	ワークアップ粉剤DL		kg
	ワークアップフロアブル		ml

※注意①: 種子更新欄は、購入された品種と種子購入量を記入して下さい。
※注意②: 資材・農薬名のない場合は、空白欄に使用された資材名・農薬名と使用量を記入して下さい。

農薬を使用する場合はゴム手袋・マスク等の防護具を着用して下さい。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう。